

I G S 理事会報告

I G S 理事 東洋大学教授 赤 木 俊 允

1995年2月19, 20日の両日、I G S 理事会は米国テネシー州、ナッシュビル(Nashville) 市のオップリランド (Opryland) ホテルで行われた。ちなみに、これは同ホテルで2月21-23日開催された「ジオシンセティックス95」と題する国際会議の直前である。

出席者：C. J. F. P. Jones 会長、R. K. Rowe 前会長、R. Bathurst 副会長、P. E. Stevenson 事務局長、W. Voskamp 経理担当理事の各役員、および T. Akagi、D. Cazzuffi、B. Christopher、J. G. Collin、M. Fukuoka、J P Gourc、G. Heerten、R. D. Holts、G. P. Karunaratne、C. Lawson、P. Rimoldi の各理事

1) I G S の内規、会議開催などのガイドライン、その他の諸規則をまとめた I G S ハンドブック (理事会用資料) 新版が用意され、配布された。

2) 法人会員の増加策として、理事は各々2社程度の候補を探し、会長からの手紙と I G S 入会資料を用意して勧誘を計る方針が提案され了承。皮切りとして、日米欧の18社が有力候補として紹介された。

3) I G S 学会誌 G & G の出版社であるエルスビア (Elsevier) は、「ジオテキスタイルズ95 *」と称する会議を主催することにしている。1996年9月開催予定の I G S 主催の第一回欧州会議 (於マーストリヒト) と競合する可能性もあり、I G S は既に反対を表明しているにも拘らず、依然として I G S 後援の会議であるかのような P R を継続している。会長からエルスビア社に対し、I G S はこの会議には一切関与しないことを、再び強く警告することとなった。更に、会長は各支部、全法人会員に対しその旨の手紙を出し (あるいは I G S NEWS に発表し)、周知を計ることとなった。 [* "Geotextiles 95," October 1995, 於ミュンヘン]

4) テナックス (Tenax) 社が唯一のスポンサーとなっている「欧州の補強土工法」シンポジウム (May 1995, London) については、I G S は後援しないことを、英国支部に対し通告することとなった。支部活動や多数の会社を含む集合体としての催しに対しては、I G S は支援を惜しむものではないが、今回の会議は全く1社のみによる活動であり、これらのケースとは同一視できないことを、英国支部に対して十分に説明する。

5) 中国支部に対し、彼等の国内会議を国際会議としていることは事実と反するので、会長から名称を改めるよう注意することとなった。問題となった英語名は、"First China International Geosynthetics Conference and Exhibition (Geosynthetics China '96)" 。

6) 英国支部から要請が来ている「ランドフィル内のジオシンセティックス」セミナー (Nov. 1995, Glasgow) については、IGS後援として承認することとなった。

7) 「サルディニア95」会議 ("Sardinia '95," 2-6 Oct. 1995, Cagliari, Italy) におけるロウ前会長とジル元会長によるセミナーに対しては、IGS後援とすることとなった。

8) 次のような財政・予算関連の問題が検討され了承された。 a)本部からの各支部への会費請求は、前年末の会員数に応じたリベートを差し引いた額とする。会員数の増減に伴う支払いは、6月1日か、会員名簿原稿締切の9月1日に行う。 b)原則として、会員名簿は各支部宛に一括して直送し、支部が各会員に郵送する。但し、これに要する費用は本部持ちとする。 c)予算に関しては、今回特に変更はないとの報告。但し、教育委の活動開始に伴い資金を要する場合には、委員会用の予算残高5800ドルまでは支出可能であることを了承した。



時計回りに、ジョーンズ会長、カズフィ理事、ロウ前会長、カルトラネ、ヘールテン、福岡の各理事

9) IGSとしての倫理綱領 (Code of Ethics) 案が審議された。リモルディ、スティーブンソン両理事により、審議の結果を盛り込んだ改正案が作成され、後刻理事に配布され検討されることとなった。その後会長の序文を付して IGS NEWS に発表し、法人会員を含む全会員に周知させ、最終的には郵便投票により採択することとなった。

10) ジオシンセティックス普及のための教育問題については、今回始めて理事会を2グループに分け、初日の午後多岐にわたる議論を別々に行い、翌朝全体会議で総括した。ホルツ理事は更にこれを集約し、次の理事会に具体策を提示することとなった。

11) 「ランドフィル内のジオシンセティックス (Geosynthetics in Landfill)」と題するビデオが完成し、I F A Iを通じ 100ドルで販売する。次は「道路・交通関連のジオシンセティックス (Geosynthetics in Roads and Transportation)」のビデオ製作に対し、I G Sとして出資し協力することとなった。



左からの4人は、ボスカンプ経理担当理事、ローソン、コリンの
両理事と左手を挙げるジョーンズ会長

12) I G S情報をインターネットに載せることとなった。このブレイクボードは、ニュースレター、名簿の最初の数ページ、法人会員の広告などで構成されるが、会員名簿は含まないこととする。バタースト副会長が具体策を推進することとなった。

13) 出版関係： a) ジルー元会長が編集集中の「破壊例からの教訓 (Geosynthetics: Lessons Learned from Failures, IFAI から出版の予定)」は、バタースト副会長がレビューし異論がなければ、I G S賛助の出版物とすることとなった。 b) カズフィ理事はジオメンブレンに関する諸基準を集約するリストを作成中であるが、9月迄には終了する予定。I G S基準委の成果として出版するが、その出版予定は次回の理事会で決める。 c) I G S技術委の出版物として「論文と要旨の作成ガイド」(クリストファ理事担当)は本年6月に、「用語・関数ブックレット」(ローソン理事担当)は本年10月に出版の予定。 d) 会員名簿やハンドブックなどを 3.5"DISC か、CD-ROM で発行する可能性を早急に検討することとなった。

14) 表彰委員会規定案が提出され、審議の上承認された。新たにジルー・レクチャーの選定が加えられ、レクチャー候補の選定は次の基準により行われることとなった。i) 国際的な知名度、ii) 講演が巧みなこと、iii) 豊かな専門知識・経験、iv) ジオシンセティックス産業への貢献度、

v) I G Sへの貢献度。会長は新表彰委の任命を早急に行い、副会長は I G S NEWS 3月号に I G S 賞候補の募集公告を出すこととなった。



左からの5人は、福岡理事、バタースト副会長、リモルディ、クリストファーの両理事と説明に立つホルツ理事

15) マイルズ (B. Myles) 元理事による、シンガポール会議に関する意見書が提出された。この中には、I G S主催の会議における展示関係者たちの間に相当な不満があるとのアンケート結果が明示されている。展示者たちの要望に応え関心を増強するための方策について、将来の組織委のためにガイドラインを作成してくれるよう、マイルズ氏に要請することとなった。更に展示の活性化を計るため、テクニカル・セッションとは別に、展示場においてコマーシャルな講演や発表ができるようにしてはどうか、との意見が出され、現理事数名がこの案を含むガイドラインの作成に協力することとなった。

16) シンガポール会議からの本部への上納金として、東南アジア支部 (SEAC) は既に、2万ドルをI G Sに送金してきている。最終的には更に、約8千ドル追加される見込み。組織委による最終報告書の発表は本年7月の予定。

17) a) 第6回I G S国際会議は1998年3月25-29日、米国ジョージア州アトランタ市 (Atlanta, Georgia) で開催されることを了承した。 b) 1996年9月30日-10月2日の第一回欧州会議 (於マーストリヒト) においては、理事会を開催することとなった。 c) I S-KYUSHU 96 (1996年11月12-14日、於福岡市) においては、役員会を開催することとなった。 d) 次回の理事会は、1995年9月28日、フランスのボーヌ市 (Beaune) で開催することとなった。役員会は、その前日、同所で行う。

(以上)